

👉 新たな仲間との出会い

インドネシアから来日 異文化間の架け橋となる介護

介護現場の人手不足が叫ばれる中、海外から日本の介護の世界に飛び込んできた特定技能職員たち。今回は、インドネシアから来日して、わずか4か月の特定技能職員たちと、受け入れる側の上司にインタビューを行い、異文化間の架け橋となる介護の現場の実態に迫りました。



👉 「母のために学びたい」

いつか母のお世話ができるように になりたい

「介護福祉士になって、いつか母のお世話ができるようにしたいんです」
インドネシアから来日して4か月の特定技能職員たちは、将来、自分の母親が介護を必要とするときに備えたいという想いと、人の役に立ちたいという純粋な想いから介護の道を選びました。現在は食事、入浴、移動、移乗、排せつ介助といった基本的な介護業務に日々取り組んでいます。

👉 喜びと挑戦

最も嬉しかった瞬間 『ありがとう』と感謝されたとき

最も嬉しかった瞬間を尋ねると、「入所者様が困っているときに対応をして『ありがとう』と感謝されたとき」と笑顔で答えてくれました。一方で、介護の仕事には様々な難しさも感じているようです。

「対応が難しい入所者様にどう介助したらいいのかわからないことがあります。また、日本語の文章や専門用語はまだ難しいです」と打ち明けてくれました。また、体格の大きな入所者の移乗介助も身体的な課題だと感じているようです。
困ったときには同僚や先輩、上司、友人に相談しながら日々の業務に取り組んでいます。

👉 将来への希望

「日本語をもっと勉強して、介護福祉士 になりたいです。」

「日本語をもっと勉強して、介護福祉士になりたいです。日本に永く住んで、色々な場所へも行ってみたいです」と、日本での将来について熱く語ってくれました。

日本人の同僚へのメッセージを尋ねると、「介護に関する専門的な言葉がまだ難しいので、わからないことを教えてほしいです。困ったことがあれば、遠慮なく教えてください」と、素直な気持ちを話してくれました。



指導する側の視点 - 介護主任と介護副主任の声

「学習意欲があり、物覚えの早さに驚きました。
とても勉強熱心だと感じています」

受け入れ側の介護主任と介護副主任は、リハビリ施設である介護老人保健施設で現在3名の特定技能職員を指導しています。

「特定技能職員には入所者様とのコミュニケーションやレクリエーションを中心をお願いしていますが、介護技術も日々勉強してもらっています。基本的には通常の職員と同じ内容の業務をお願いしています」と説明してくれました。

3人の印象を尋ねると、「学習意欲があり、物覚えの早さに驚きました。とても勉強熱心だと感じています」と話してくれました。



想像以上の受け入れ - 入所者様の反応



暖かく受け入れてくれています

特定技能職員に対する入所者様の反応については、「当初から抵抗なく受け入れてくださっています。名前でご呼んでくださる入所者様もいます」と話してくれました。

「当初は冷たく対応される入所者様がいるのではと思っておりましたが、そのようなことはなく、暖かく受け入れてくれています」と、想像以上の嬉しい反応に安心している様子でした。



言葉の壁と新たな可能性 - 介護現場の挑戦

持続可能な介護への道 新しい視点の発見やエネルギー

受け入れる側の最大の課題は言葉の壁でしたが、それは新たな視点との出会いでもありました。「言葉の違いが難しく、日本語の細かいニュアンスを伝えるのが特に難しかったです」と振り返る一方で、「入所者様、職員にとって、外国の方がいることで新鮮な刺激になっています」、「人手不足の解消が大きなメリットですが、新しい視点の発見やエネルギーをもらっているのも事実です」などの、新たな可能性と課題について、前向きな挑戦する声が聞かれました。課題の解決策として「簡単な言葉への言い換えや、文章を読む機会を増やし、ジェスチャーも取り入れたコミュニケーション、チェック表やマニュアルに”ふりがな”を付ける」などの工夫を行っています。

今後の育成方針は「介護の基本とケアに対する心構えを学ぶこと、そして日本語能力の向上」としています。

これからも言葉の違いを乗り越え、お互いに学び合い、成長していく介護現場の新たな挑戦がスタートしています。



心のこもったメッセージ

入所者様に寄り添う介護職員へ

最後に介護主任と介護副主任から、特定技能職員たちへのメッセージを尋ねると、「様々なケアの場面を経験して、入所者様に寄り添う介護職員になってほしいです」と期待を込めて語ってくれました。

さらに、「母国から遠く離れた日本で一緒に働いてくれてありがとうございます。皆さんの力はとても大切で、必要とされています。困った時は気軽に頼ってください。一緒に入所者様の笑顔と健康のために頑張りましょう!」と、温かい言葉を送ってくれました。